

令和2年度第2回野洲市スポーツ推進審議会会議記録（概要版）

会議日時	令和2年10月27日（火曜日）午後2時～午後3時
会議場所	野洲市役所 本館2階第5会議室
出席者	委員：山本会長、松並副会長、駒井委員、石塚委員、松崎委員 河上委員、外田委員 事務局：西村教育長、杉本教育部長、田中教育部次長、井狩生涯学習 スポーツ課長、宮脇生涯学習スポーツ課長補佐
傍聴人	0人

1. 開会（進行：井狩生涯学習スポーツ課長）

2. あいさつ（西村教育長）

未だ収束の見えない新型コロナウイルス感染症だが、少しずつ色々な取り組みが感染防止対策をしながら工夫して行われるようになってきた。

どの組織もそうだが、苦心しながら新しい一歩を探っていただいているようであり、市教育委員会としても感染防止対策をしながら色々な事業の開催に向けて努力をしている。

本日の審議会では、野洲市スポーツ推進計画中間見直し案について、ほぼ最終確認となる。委員の忌憚のないご意見やご提案を賜り、確定をしてまいりたいと思う。

第79回国民スポーツ大会も、本市で内定をされている正式競技の卓球（全種別）、バスケットボール（成年女子）、公開競技の武術太極拳に続き、デモンストレーションスポーツを本市で行うということでご説明させていただく。国スポについては、1年延期となったが、ターゲットエイジの子ども達の参加も含めしっかりと準備を進め成功に向け努力してまいりたい。

3. 報告

（1）第79回国民スポーツ大会デモンストレーションスポーツについて （生涯学習スポーツ課）

○事務局：2024年令和6年に開催予定であった国スポ滋賀については、正式に2025年、令和7年の1年延期が決定された。県と開催市町では会期やりハ大会、施設や備品の調査、整備など開催におけるスケジュールの大幅見直しをおこなっている。

デモスポについては、YASUほほえみクラブから応募について相談があり、本課と開催について協議を重ね、開催することでまとめ、国スポ県開催準備委員会へ「開催希望申請書」を提出し、県開催準備委員会で内容を確認され正式に受理された。

デモスポの内容は「スポーツ鬼ごっこ」。本市は市スポーツ協会及び市スポーツ推進委員協議会の後援及び協力を得ることを申し添え、このほど第2次募集において申請を行った。

「スポーツ鬼ごっこ」は、先催県である令和元年の茨城国体でのデモスポでも実施されており、来年実施の三重国体でも実施の予定となっている。

スポーツ鬼ごっこは、一般社団法人鬼ごっこ協会が開発したオリジナルの新鬼ごっこで、スポーツ的な要素を含ませて、従来の遊びの鬼ごっこに戦術や戦略を要するルールを加えた新しいスポーツ競技である。子どもたちのコミュニケーション能力やチームワーク、勝負意識を身につけてもらうことを目的とし、子どもから大人、高齢者まで幅広い世代に親しまれており、学校の授業などでも導入されている。本市としても現在国スポの利用のない野洲川河川公園が会場であること、経費負担や競技実施に伴う整備費用についても問題のあるような金額ではないこと、などから総合的に判断し開催希望申請をおこなった。

なお、滋賀県でのデモスポについては、第1次内定として9つの競技が6市において開催されることが決定されている。

- 委員：私の所属する団体からお願いした。国スポまでに本競技の普及を行い、さざなみスポーツクラブと共同で大会を実施し、デモスポとして育てていきたい。

4. 議事

(1) 野洲市スポーツ推進計画中間見直し（案）について （生涯学習スポーツ課）

○事務局：平成31年3月に開催したスポーツ推進審議会から数えて本日まで5回に渡り協議いただいた、野洲市スポーツ推進計画の中間見直し案も本日はほぼ決定となる。前回ご指摘いただいたことについて修正や追記を行ったので、委員の皆様と確認をさせていただき策定、発行とさせていただきたい。なお、資料は事前に送付をさせていただいているので、本日は、修正や追記などした箇所のみ確認させていただきたい。

- 委員：現在コロナ禍にあり、新しい生活様式の中で如何にスポーツの普及を進めていくかという文言を含めなくてよいか、またコロナ禍で色々影響があり、それを前提にデータを見直さなくてよいか。
- 委員：令和2年がコロナ禍という特異な年であり、「新しい生活様式のなかでのスポーツの振興」という文言を入れてもいいのでは。文化やスポーツは、衣食住の次にくるものだが、余裕の部分の大切さ、人との交わりや居場所づくり、人との絆などが大切であると再確認できた。コロナ禍での取組も入れてみては。
- 委員：コロナはいずれ終息することは間違いない。コロナは生活や活動、スポーツを見直すにはいい機会になったと思う。しかし今普通ではない生活を行っている。その中でどうしていくかというのは、この計画に盛り込むのは難しい。
- 委員：総合型の会員はかなり減っている。

- 委員：5年後の目標値なのでこのままでもよいのでは。
- 事務局：国や県の計画を元に市では計画を行っており、数値も国や県のものを使用している。来年の目標となれば当然コロナの影響は加味しなければならないが、令和7年を目標にしており、今後のコロナの状況については分からないが、目標値はこのままでもよいのではと考えている。逆にコロナを文言に入れ影響を加味した上で目標値を入れるとなると現存するデータもないことから、市独自で調査するということになるが難しい。今回の中間見直しはこのままで、次にくる第2次の見直し時に考えていきたい。
- 委員：この時期の見直しでコロナについて議論したのかと言われる恐れがあるので発言した。計画とデータの部分的な確定はオーソライズされたものであるものでこれでいいと思う。
- 委員：市内の事業は全体的に減っているが、スポーツをしたいという気持ちはもっているはずだ。工夫し新しい手法を考え、7年後の国スポが迎えられたらいいのではないか。
- 会長：スポーツ推進計画中間見直しはこの内容で良とする。

5. その他

- 会長：せっかくなので委員の考えや取り組みを共有したい。
- 委員：総合型の会員や参加者は減っているが、工夫しながら事業を継続しているが大型イベントは年内は中止した。コロナ対策は、スポ少や協会加盟団体のガイドラインがあるので、それを守って実施している。特に人数が密にならないよう場所や時間を分離して実施している。
- 委員：会員数は減ったが、少ない人数だからできるものを実施している。またこのような状況でなぜ事業を実施しているのかという人と実施しても大丈夫だという人がおり、これだけ人の意識の差は大きいものなのかを実感している。組織として実施の可否の決断の難しさを感じた。
- 委員：市内の学区については、全学区取り組んでいる大会は中止となった。また各学区の運動会も中止となった。来年度は代替になるものも考える必要がある。
- 委員：スポ少は本部や上部競技団体の指示や市の方針に則り感染防止対策をしながら活動している。6年生の最後の大会は秋頃から開催できそうだ。ただし市スポ少本部の事業は年内中止とした。昨年とは異なる状況で色々模索しながら子ども達をどう導くか考えている。人数は少子化の影響で減ってはいるが、コロナだからと激減していることはない。大会参加については、1週間前から本人と家族の体温管理と体調記録をまとめ、団員、指導者、支援保護者とも当日主催者に総表を提出し、消毒、試合以外のマスク着用などの感染対策を実施している。
- 委員：スポーツ協会は、夏の大会は全て中止した。部活動は時間を制限しながらも活動している。遠征は全員連れていかず3年生及びレギュラーのみで参加

者を絞っているが、先輩の姿を見せることができず、見て育つことができないので残念だ。また運動している子としていない子の差が顕著だ。

- 委員：スポ推は活動の場がなく定例会で実技研修などを行いスキルアップを図り準備を行っていた。秋頃から幼稚園などから指導依頼が来るようになり、園児が密にならないよう2部制で実施している。秋の屋外での事業は例年なら人数無制限で実施しているが、コロナ対策として事前申込制の上限50人で実施することにした。また密にならないよう小グループ制で実施する。運動にマスクはしんどいのでマウスシールドを参加賞として準備した。コロナで何もかもなくなってしまったことによりスポーツ活動が必要なことに改めて気づいた。
- 会長：それぞれの団体も様々なガイドラインに準じて進めているようだ。ある学区では、住民にタオルと運動例を写真にして配布し、それを活用する取組を進めたり、県内では自宅で出来る運動を動画配信したりして努力している。コロナの収束は不透明だが、スポーツ推進の役割を持つ我々としては、色々見直して工夫して取り組んでいきたい。